

策としてコッホは大便および吐物の消毒を提唱したのに対して、ペッテンコーフェルは下水道の完備を推奨した。この検討会ではペッテンコーフェルの主張がいま一步具体性を欠いたので、争点がややぼやけてしまったが、大勢として軍配はコッホに挙がった。そして一八九二年コレラ菌で汚染されたエルベ川を水源としていたハンブルグで水による爆発的なコレラ流行が起こり、コッホの学説が決定的に受け入れられることとなった。このようにペッテンコーフェルが誤りを犯した基本的な理由は、コレラ流行の発生が偶然の因子に大きく支配されているにもかかわらず、これを決定論的な立場で解釈しようとしたところにあつたと言えよう。

新刊紹介

日本耳鼻咽喉科学会編『日本耳鼻咽喉科史』

日本耳鼻咽喉科学会は、明治二六年二月に学会の前身である東京耳鼻咽喉科会を結成してから昭和五八年に学会創立九〇周年をむかえた。これを機に、先人の労をしのぶとともに、学会の著実な歩みをしるし、将来の隆昌を願って発刊したのが本書である。古代から現代にいたるまでの国内の耳鼻咽喉科に関する史料をひろく収集するとともに、関連する海外の資料も可能なかぎり収録している。

その目次の一部を紹介すると、日本耳鼻咽喉科略史、耳鼻咽喉科学教室史、耳鼻咽喉科地方会史、耳鼻咽喉科医療の変遷、関連する学会ならびに研究会史、耳鼻咽喉科図書一覧、耳鼻咽喉科人名録などで、総ページ八六一ページにおよぶ大著である。

申込み先 千108 東京都港区高輪三ノ二三ノ一四 シャトー高輪八〇七号 日本耳鼻咽喉科学会、頒価一万円。

(Y・F)